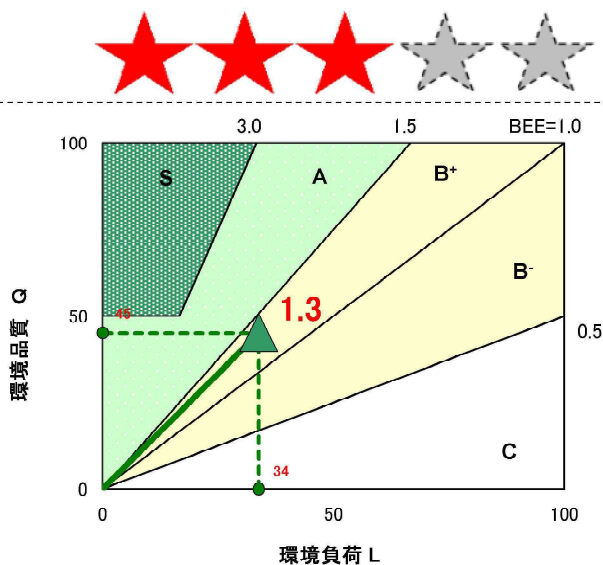


# CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)熊本市中央区上通町計画新	階数	地上13階		
建設地	熊本市中央区上通町11番4、11、37	構造	RC造		
用途地域等	商業	平均居住人員	328 人		
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工時期	2028年3月 予定	評価の実施日	2025年3月1日		
敷地面積	1,922 m <sup>2</sup>	作成者	稲田 太		
建築面積	1,184 m <sup>2</sup>	確認日	2025年3月1日		
延床面積	13,163 m <sup>2</sup>	確認者			

## 2 CASBEE評価結果

### ■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.3

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$

#### ■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

#### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)



排出率

62%

## 3 熊本県重点評価結果

### ■ 重点事項総合評価



評価点

78

評価点

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

90.1

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

58.7

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

75.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

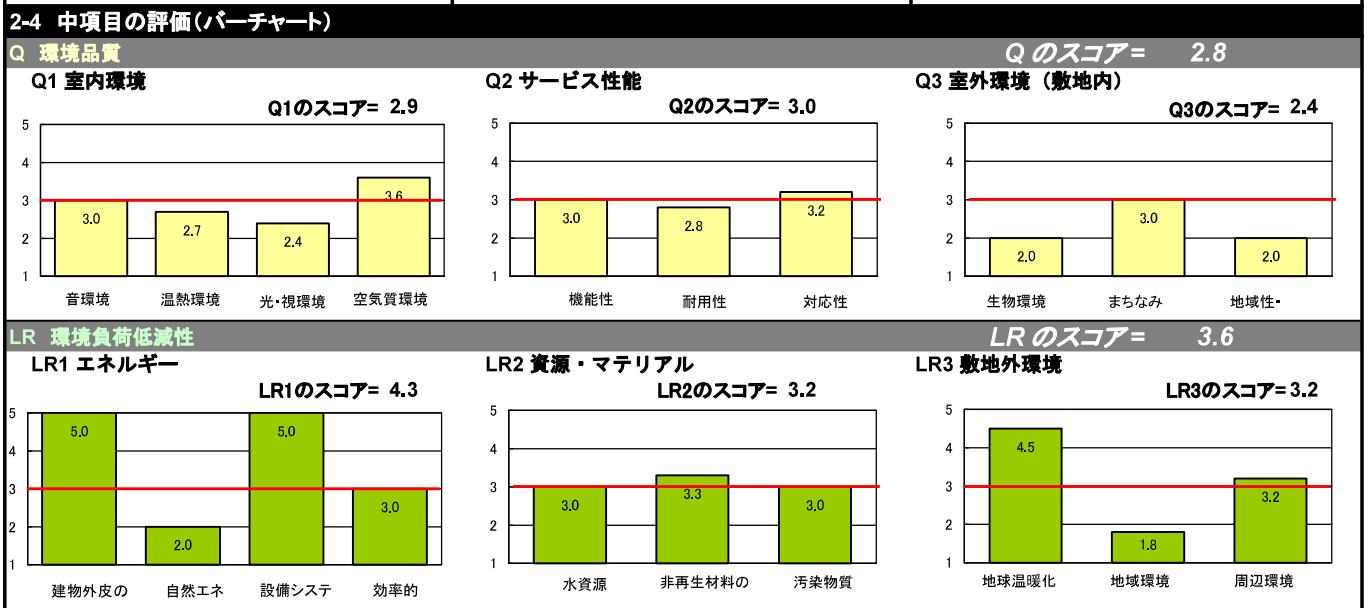
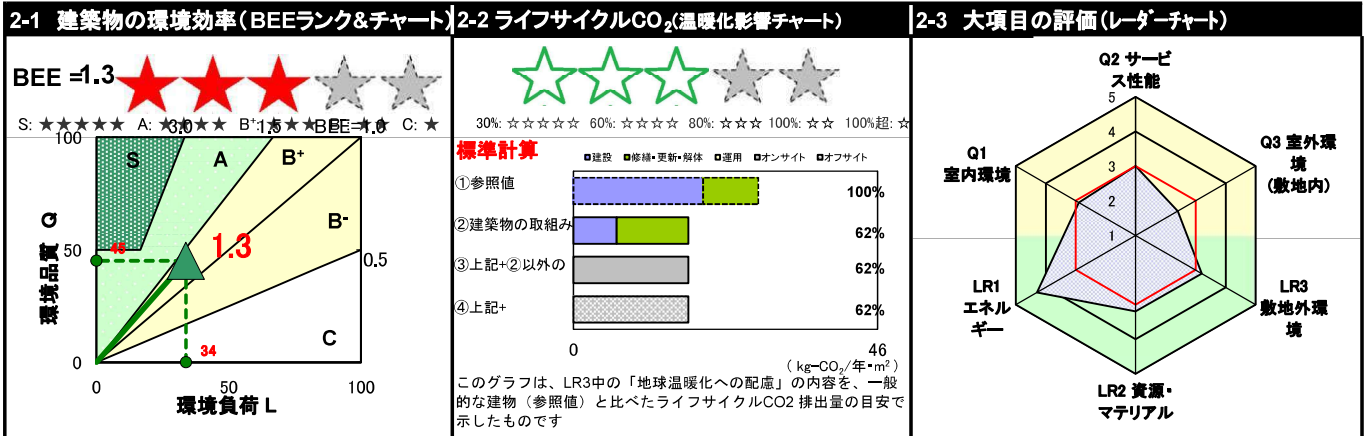
75.7

#### ■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)熊本市中央区上通町計画新	階数	地上13階
建設地	熊本市中央区上通町11番4、11、37	構造	RC造
用途地域等	商業	平均居住人員	328 人
省エネ・地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年3月 予定	評価の実施日	2025年3月1日
敷地面積	1,922 m <sup>2</sup>	作成者	稲田 太
建築面積	1,184 m <sup>2</sup>	確認日	2025年3月1日
延床面積	13,163 m <sup>2</sup>	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

スニアシート		実施設計段階						
配座項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質					0.40	-	-	2.8
Q1 室内環境								2.9
1 音環境				3.0	0.15	3.1	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音				3.0	0.50	3.2	0.50	
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 外壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30	
3 外壁遮音性能(軽量衝撃源)		二重床遮音性能: ΔLL(Ⅱ)-4		3.0	-	4.0	0.20	
4 外壁遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				-	-	3.0	-	
2 温度環境				1.0	0.35	3.5	1.00	2.7
2.1 室温制御				1.0	0.71	3.7	0.71	
1 室温				1.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能		住宅性能評価、断熱等性能等級:等級5		1.0	0.38	5.0	0.38	
3 ソーラー制御性能				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.29	3.0	0.29	
2.3 空調方式				-	-	-	-	
3 光・視環境				1.7	0.25	2.8	1.00	2.4
3.1 昼光利用				1.8	0.40	2.4	0.30	
1 昼光率				1.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口				-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				1.0	0.40	3.0	0.30	
1 昼光制御				1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度				3.0	0.20	3.0	0.15	
3.4 照明制御				-	-	3.0	0.25	
4 空気環境				3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を使用		4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-	
2 喫煙の制御				-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.0
1 機能性				3.0	0.40	3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・装飾				1.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建築物のこれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				2.9	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		住宅性能評価、劣化対策等級:等級3		5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3 電気設備				3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり				-	-	3.6	0.50	
1 階高のゆとり		階高:2.96m以上		3.0	-	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				1.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				2.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アイデンティティへの配慮				2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の緑化量・荷低減性				-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.3
1 建築物外皮の熱負荷抑制		住宅性能評価、断熱等性能等級:等級5		5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm]: 0.73		5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				2.0	-	-	-	
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源確保				3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		二重床、二重天井で躯体と設備の分離		5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含む材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮				4.5	0.33	-	-	4.5
2 地域環境への配慮				1.8	0.33	-	-	1.8
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温暖環境悪化の改善				1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音				3.0	1.00	-	-	
2 振動				-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
1 建物周囲及び敷地内照度のうち特に高くなる光への対策		チェックリスト参照		5.0	0.70	-	-	
2 屋上の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

## ■ 環境関連の配慮事項

(仮称)熊本市中央区上通町計画新築工事

印刷:モノクロ  
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	室内環境やサービス性能に配慮し、環境品質の向上に努めた。 また住宅性能評価 断熱基準等級5を満たし、断熱性に優れた計画とした。	
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物内装材全てにF☆☆☆☆を使用した計画</li> <li>・全居室窓面にカーテンレール下地を設置した計画</li> </ul>	
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給水・排水管を躯体へ打設無し、躯体を傷めず設備の更新・修繕が出来る</li> <li>・劣化対策等級(構造躯体等)の等級3の基準で構造躯体を設計し、基準躯体耐用年数の引き上げを考慮</li> </ul>	
Q3 室外環境 (敷地内)	出来る限り敷地内に植栽帯を設けた。	
LR1 エネルギー	断熱性の高い材料の採用と高効率設備の導入により、環境負荷低減に配慮。	
LR2 資源・マテリアル	ノンフロン断熱材を使用し、汚染物質含有材の使用回避を行った。	
LR3 敷地外環境	駐車場の出入り口を商店街方向を避け、北側道路面とした。	
その他		

建物名称 (仮称) 熊本市中央区上通町計画新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		78
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				90.1	0.40	36.04
Q1-2.1.2	外皮性能	3.7	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.4	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	2.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				58.7	0.20	11.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	3.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				75.7	0.20	15.14
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.9	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数